

発行

京都教育大学同窓会

発行責任者

会長 大越 房数

# 京都教育大学 同窓会だより

事務局

〒612-8522

京都市伏見区深草藤森町1  
京都教育大学内

TEL 075-644-8353  
FAX

メールアドレス  
dosokai@kyokyo-u.ac.jp



## 人と人との繋がりを大事にして

京都教育大学同窓会副会長 深尾 清美



記録的な猛暑が続く中でしたが、令和七年度の「定期総会・交流会」は、一三名の参加が得られ、盛大に開催することができました。皆様、ありがとうございます。

今年、最高年齢九六歳の方から一九歳の学生の方までの参加がありました。また、交流の時間を昨年度よりも長くすることに、多くの方々と一緒に語りを行うことができました。来年度の京都教育大学創基一五〇周年に向けて、皆様の思いが一つになったように思います。涼しいホテルでしたが、皆様の熱い語らいで、室内温度も上がったように思いました。

私の住んでいる地区では、皆様の会費を集めています。初めて各会員方々への訪問の時は、大変緊張しながらインターホンを押した記憶があります。その後、何度か訪問をさせていただくうちに、自然に近況や大学時代の事などを話すようになってきました。年代も学科も違う、ただ母校が一緒というだけで様々な話ができるというのは、不思議なことでもあり、嬉しいことでもあります。

この出会いを大切に、創基一五〇周年に向け、会場にあふれるぐらゐの人数でお祝いできるよう、学科や専攻の同期会、部活動のOB会のみならず、職場や様々の集まりでお声かけしていきたいと思ひます。どうぞ皆さまご協力よろしくお願ひいたします。

### 今号の内容

- ① 副会長挨拶
- ② 定期総会
- ③ 予算・決算・組織事業計画
- ④ 学び舎
- ⑤ 随想
- ⑥ 創る
- ⑦ キャンパスライフ
- ⑧ 紫郊体育会の活動
- ⑨ 頑張っています
- ⑩ 創基記念特集
- ⑪ 行事・編集後記
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮
- ⑯

# 定期総会

## 定期総会祝辞

京都教育大学学長

太田 耕人



令和七年度、京都教育大学同窓会総会の開催、まことにおめでとございます。日頃より本学の教育研究活動にご理解とご支援賜りまして本心に心より感謝申し上げます。

さて、国立大学の財務状況ということ、なかなか厳しいものでございますが、本学も残念ながら例外ではございません。特にこの一、二年は人件費や物価の高騰が重なりまして、一層切迫した状況となっております。どうか京都という「始末」を徹底致しまして、赤字を回避しているような実情でございます。片や小中高では教員不足が深刻になりまして、本学の附属学校園でも、非常勤講師等でまかなわなければならない、そういう状況になっております。とても皮肉なことなのですが、そのことが人件費の節約に繋がっているという側面もございます。こうした厳しい

状況の中、同窓会の皆様の物心両面にわたりますご支援は、本当に大きな励みとなっております。在校生への奨学金のご提供はもちろんでございますが、例えば教育界で活躍されている管理職の方々と私共、大学役員を引き合わせてくださるといった多岐にわたるご支援、本当にありがとうございます。

財政的に厳しいからと申しましても大学の活動を停滞させるわけには決してまいりません。本学の様々な取組の中でも、最も社会的な注目を集めておりますのが、昨年少しご紹介いたしました学びサポート室の活動でございます。この学びサポート室は、学校現場が増えております特別な配慮を必要とする子どもたちへの配慮に苦勞されている学校や先生方を支援する組織でございます。文科省の支援をいただきまして、五名の専門教員が非常に旺盛な活動をいたしております。昨年度の実績をご紹介いたしますと、公立学校でのケースカンファレンス、それから附属学校への事例対応、合わせまして一五四回、また講演、セミナー、シンポジウム等は合わせて一〇〇回を実施いたしました。この参加者は八二〇〇名以上となっております。さらに特筆すべき点が二点ございまして、一つは「まなサポ」データベースです。この「まなサポ」という学びサポート室を縮めた愛称でござい

ますが、この「まなサポ」データベースに、多様な学習や合理的配慮などに対します記事を九五件掲載をして、運営を始めております。また

東京大学大学院医学研究系及び企業の内田洋行と本学の三者で、不登校に対する対応策に関しての共同研究も開始しております。このように本学は、教育現場の喫緊の課題に、その最前線で向き合っております。こうした先進的な取組ができますのも、ひとえに先輩方が築かれてきて、そして脈々と受け継がれております本学の伝統と実績の賜物と思っております。皆様もご存知のとおり、本学は来年、京都府師範学校創設以来一五〇周年を迎えることとなります。現在記念事業の計画も着々と進んでおりまして、来年一〇月には記念式典を致します。また、一二〇年誌というのはずで出ておりますので、この三〇年間の歩みをまとめました冊子の刊行も予定をしております。記念ロゴも完成をいたしました。まもなくホームページ等でお披露目できるかと思っております。キャッチフレーズも決定を致しました。「京都の森で、子どもと作る未来」、どうして京都の森かと申しますと、本学のキャンパスと樹木が非常に大きく成長致しまして森のようになっております。また、藤森という地にあるということで、京都の森という項目を入れさせていただいております。

この記念すべき年を、ぜひ同窓生の皆様と手を携えて祝いたいと存じております。また創基一五〇周年に關しましては、皆様にご寄付をお願いさせていただいておりますが、現時点ですでに、相当額をご寄付いただいております。本当にありがとうございます。この皆様からのご寄付は、本学の財政的危機を切り拓くための資金として大切に活用させていただきます。

最後になりましたが、京都教育大学同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸とそしてご健勝をお祈りいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

京都府知事 西脇 隆俊  
(代読) 山下 俊彦 教育監



京都教育大学同窓会令和七年度総会が、多くの皆様のご出席のもと、

# 令和7年度

盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

貴同窓会におかれましては、京都府師範学校同窓会として明治四二年の発足以来一六六年の長きに渡り、会員の資質向上を目的とした研修や親睦を図る活動を継続され、さらには「あつたかトークショップ」や「いとも講演会」など、同窓生と在学生とが絆を深める取組を通して、母校の進展に大きく寄与して来られました。大越会長をはじめ、役員並びに会員の皆様のご尽力に対し深く敬意を表します。

来年、創立一五〇年を迎える長い歴史と伝統を誇る京都教育大学の卒業生の皆様は、学校教育はもとより社会教育等、幅広い分野において活躍されています。これは、京都教育大学が、長い歴史の中で築いてこられた教育の精神と、卒業生の皆様のためまぬ努力によるものです。世代を超えて受け継がれる知識と情熱が、日本の教育の根幹となっていることに、改めて心から敬意を表するとともに、これからも教育界を牽引する人材を育成していただきますよう、お願い申し上げます。また、これから迎える一五〇周年を機に、同窓会の活動がさらに発展し、教育の未来に寄与されることを期待しております。

さて、昨今、社会の変化に伴い教育環境にも大きな転換が求められて

います。デジタル化の進展により、ICTを活用した教育が急速に普及し、個々の学習スタイルに合わせた指導が可能となる一方で、新たな課題も浮かび上がる中、教員には、知識の伝達にとどまらず、探究心を育み、子どもたちが主体的に学ぶ力を養うことが求められています。また、多様化する社会に対応するため、グローバルな視点を持った教育や、地域コミュニティと連携した学びが重要となっています。このような変化の中で、京都教育大学の卒業生の皆様が担う役割はますます重要になっており、更なるご活躍を期待するところでです。

京都府では、府民の皆様にも、安心して豊かに暮らし、将来に向かって夢を抱いていただけるよう、府政運営の羅針盤である総合計画を令和四年に改定し、「安心」「温もり」「ゆめ実現」の三つの視点に基づく「あたたかい京都づくり」を進めているところであります。京都府としても、教育環境の整備を進め、子どもたちが安心して学び、豊かな生活を切り拓き、持続可能な社会の作り手となるための必要な資質・能力を身につけることができるような未来を築いていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、京都教育大学同窓会の益々のご発展と本日ご参集の皆

様のご健勝を祈念いたしましたし、お祝いの言葉といたします。

京都市長 松井 孝治  
(代読 稲田 新吾 教育長)



本日、卒業生の皆様が一堂に会される中、京都教育大学同窓会の令和七年度総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。現在、教員を志す若者の数が減少し、教員不足が深刻化する時代を迎えておりますが、京都教育大学におかれては、本市のほか、大学や京都府とともに連携した「連合教職大学院」の取組を始めとして、次代を担う教職志望者に向けた様々な教育施策の推進にご支援を賜っており、心から感謝の意を表します。

学校教育における教育ニーズは、日々多様化・複雑化しておりますが、子どもたち一人ひとりにスポットを当てた丁寧な学習支援を行うためには、その原動力となる教員の養成が必須となります。

こうした中、貴会におかれては、同窓会の皆様の幅広い経験や専門性を活かして、教職を目指す学生を対象に、先輩教員として情報を共有し、不安や思いを語り合うフリートークの取組を始められるなど、学生たちに教師としての誇りややりがい、教育現場の魅力等を伝え、大学が進める教育研究や人材育成を力強くサポートされております。毎年素晴らしい卒業生が教員採用試験に合格され、また多くの同窓の先生方に管理職として、京都の教育を力強く牽引いただいております。近年の文部科学省の「全国学力・学習状況調査」においても、本市の小中学校はともに大変良い結果となるなど、これまでの先生方の教育実践の成果は着実に表れており、改めて感謝申し上げます。

本市としても、昨年度末に策定しました「新京都戦略」を礎に、すべての人が「居場所」と「出番」を持ち、生き生きと活躍できるウェルビーイングなまち「突き抜ける世界都市京都」の実現に向けて、全力を尽くしてまいりますので、同窓会の皆様におかれては、それぞれのお立場から引き続き力強いご支援・ご協力を何卒お願い申し上げます。

結びに、京都教育大学同窓会会員の皆様のご健勝とご多幸、並びに京都教育大学の更なるご発展を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

**令和7年度 会計予算計画**

科 目		予算額(円)	備 考	
収入の部	前年度繰越金	436,749		
	会費・入会金	7,626,000	一般会員、学生会員	
	寄付金	0		
	雑収入	1,000	利息	
	積立金より	0		
計		8,063,749		
支出の部	行事等経費	100,000	委員会行事	
	大学関連費	50,000	大学との共催事業	
	学生支援事業費	1,000,000	支援事業	
	会議費	450,000	総会費、会議交通費	
	会報発行費	980,000	会報発行・発送	
	通信運搬費	660,000	文書送付・払込手数料	
	支部事業補助費	200,000	支部への補助	
	事務局管理費	1,980,000		
	賃貸料	370,000	印刷機リース料	
	印刷費	130,000	コピー・インク	
	消耗品費	50,000	事務用品等	
	名簿管理費	60,000	データー入力	
	備品関係費	150,000		
	雑費	10,000	日用品	
	卒業後運営基金	1,800,000	令和7年度学生会員	
	予備費	73,749		
	計		8,063,749	
	収支差額		0	

**令和6年度 会計決算報告**

科 目		予算額(円)	備 考	
収入の部	前年度繰越金	242,171		
	会費	8,334,882	一般会員、学生会員	
	寄付金	0		
	雑収入	768	利息	
	積立金より	0		
計		8,577,821		
支出の部	行事等経費	70,000	委員会行事	
	大学関連費	28,000	大学との共催事業	
	学生支援事業費	891,000	支援事業	
	会議費	429,086	会議交通費	
	会報発行費	937,180	会報発行・発送	
	通信運搬費	572,379	文書送付・払込手数料	
	支部事業補助費	169,702	支部への補助	
	事務局管理費	2,520,000		
	賃貸料	339,900	印刷機リース料	
	印刷費	110,158	コピー・インク	
	消耗品費	46,818	用紙・封筒他	
	名簿管理費	55,495	データー入力	
	備品関係費	7,580	額	
	雑費	2,814	日用品	
	卒業後運営基金	1,938,000	令和6年度学生会員	
	予備費	22,960	旅費等	
	計		8,141,072	
	収支差額		436,749	

**令和7年度 京都教育大学同窓会 本部組織**

理事	役員	会 長	大越 房数	5委員会		
		副 会 長	阪田 忠司	広報委員会・会員活動委員会		
		副 会 長	深尾 清美	組織委員会・学生サポート委員会		
		運営委員長	齊藤 敦彦	財務委員会		
	委員会	組織委員会	長	安居 昌行	広 報 委員会	
			副	沖田 悟傳		
				蛭子 正幸		
				林 明宏		
				森谷 年裕		
			☆	米澤 武史		
		学生サポート委員会	長	藤内みゆき		会員活動委員会
			副	奈良 昌幸		
			☆	民岡 薫		
				津知 隆一		
				豊田寿美夫		
			新	永原 隆博		
財務委員会	長	長者 善高	新			
	副	岸田 蘭子				
	特別参与	青木 義照				
			長	村田眞里子		
			副	渡邊 聡		
			☆	市田 克利		
				岩場 利知		
				佐原 裕子		
				門田 真澄		
			新	安田 睦美		

会計監査	浅野 伴子	若松 秀一
事務局	齊藤 敦彦	三宅 康夫
協力者	植松 迪夫	藤田 加代
	上原 文子	増山 忠雄
特別顧問	太田 耕人	学 長
	浅井 和行	理事・副学長
	相澤 伸幸	理事・副学長
顧 問	青山 信人	事務局長・副学長
	林 伊織	橋本 康二
	高西喜久子	廣瀬 賢二
	林 弘子	宗村 隆生
	辻 迪夫	瀧口 宣男
	杉本 弘子	穂積 豊
	牧野 修	高向 健次
	増山 亨	

※敬称略・五十音順（特別顧問、顧問は歴代順）  
HP：ホームページ担当、☆：大学教員

## 令和7年度 事業計画

- 1 定期総会 令和7年7月13日(日)  
於 ホテルオークラ京都
  - 2 本同窓会の課題  
同窓会の活性化を図る
    - (1) 組織の充実
    - (2) 会員増を図る
    - (3) 財政の安定化と事業の充実
    - (4) 入学時入会制に伴う会員定着化
    - (5) 大学との連携の充実  
令和8年の大学創基150周年に向けて
  - 3 委員会活動
    - (1) 組織委員会
      - ①同窓会員増の取組
        - 会費入金方法の多様化等による入会促進
        - 「1-2(ワン・ツー)運動」や各種同窓生会合での入会呼びかけ
        - 京都府内公立学校・園の本学卒業生の動静把握と入会勧誘
      - ②支部長会並びに幹事会の開催
      - ③学生会員の組織化及び卒業後の対応
    - (2) 学生サポート委員会
      - ①専攻代表者の選出
      - ②専攻代表者会の運営  
事務連絡とともに、専攻代表者同士、学生サポート委員会との交流を大切にする
      - ③第14回「あったかトークショップ」の開催  
R7.12.12(金)
      - ④大学(学生課・教務課・学科主任等)や組織委員会との連携
  - (3) 広報委員会
    - ①「同窓会だより」97号(R7.4.15)・98号(R7.10.15)の発行、99号(R8.4.15)の編集
    - ②ホームページの運用と周知
  - (4) 会員活動委員会
    - ①「第26回写真展・第3回スマホの部写真展」  
R7.11.7(金)～9(日)〈藤陵祭期間中〉
    - ②「第12回いいとも講演会」  
R7.11.8(土)13:30～15:00〈藤陵祭期間中〉
    - ③「第59回 囲碁大会(囲碁道場)」  
R7.11.8(土)9:30～16:00〈藤陵祭期間中〉
  - (5) 財務委員会
    - ①財政安定化への取組
      - 合格者への入会案内(入学時入会をお願い)
      - 未加入の卒業生に入会勧誘・・・組織委員会との連携
    - ②大学、学生への支援
      - 同窓会奨学金、大学祭補助、新入生歓迎会補助、卒業記念品
    - ③支部事業への財政的援助
      - 活動に対する補助金
- 4 事務局の主たる業務
    - (1) 会員名簿の作成・管理
    - (2) 同窓会費の集金
    - (3) 同窓会だよりの発送
    - (4) 各種会議招集のための諸準備
    - (5) 支部等との連携
    - (6) 全国各地の同窓会員との連携
    - (7) 学生会員等との各種連絡調整

## 京都教育大学創基150周年記念事業への寄附について依頼申し上げます

京都教育大学創基150周年記念基金において、同窓会の皆様より心温まるご支援を賜り、誠にありがとうございます。既に例年をはるかに上回る件数のご寄附があり、反響の大きさに驚くとともに本学への期待を感じ、身の引き締まる思いです。

ご支援いただきましたご厚志は、「子ども」「教育」「地域」をコンセプトに、次の世代に向けた教育環境のさらなる充実と、研究活動の発展を目指すため、大切に活用させていただきます。つきましては、引き続き同窓会の皆様におかれましても、可能な範囲でのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

インターネットからの  
お申し込みはこちら



「京都教育大学教育研究支援基金」へご寄付いただいた皆様への謝意とご芳名は、大学ホームページに掲載させていただいております。下記のURLまたは二次元コードからご覧ください。(芳名録への掲載については、ご了承いただいた方のみ掲載しております。)

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/donation/sienkikin/kikin/>

京都教育大学 総務・企画課

kouhou@kyokyo-u.ac.jp



## ピノキオ会

発達障害教育専攻三回生 小出 莉彩

ピノキオ会は、京都教育大学附属特別支援学校の主に中学部、高等部の子どもたちと一緒に遊ぶサークルです。現在五名の子どもたちと一緒に活動しています。活動内容としては、大学内で季節にあった工作活動を中心に行なっています。年に二回程度、大学の外に出て遠足に行くこともあります。

ピノキオ会の良いところは三つあります。

一つ目は「考え練習し実践する機会を得ることができるところ」です。活動中気をつけるべきことや時間配分など、特別支援学校の子どもたちと関わる上で重要なことを考え、練習し、実践する機会になります。

二つ目は「子どもたちとの関わりを持つことができる場所」です。特に発達障害教育専攻の学生にとっては、特別支援学校への実習に行く際に顔見知りの子どもができ、実習時の安心感に繋がります。

三つ目は「大人との関わり方を知ることができる場所」です。活動に参加する子どもたちの保護者の方や、大学の職員の方とのやりとりを通して学ぶこともたくさんあります。



二〇二五年七月現在、参加している学生も子どもも少なく、活動が行えない日もしばしばある状況です。今後は新たなメンバーの参加を促し、より安定的に活動を継続していけるよう、広報や連携の方法も見直していく必要があります。ピノキオ会は、学生にとっても子どもたちにとっても貴重な学びと交流の場であり、このサークルの価値を多くの人に知ってもらいたいと考えています。



## 男子バレーボール部

体育領域専攻四回生 藤田 和真

私たち男子バレーボール部は、現在プレイヤー一〇名、マネージャー八名の計一八名で活動しています。活動は、火、水、木は二時間、土曜日長期休暇中は二時間半活動しています。大会には、四月、五月に行われる春季リーグ戦、九月、一〇月に行われる秋季リーグ戦、十一月に行われる関西インカレ、三月に行われる全国教育系大学大会に出場しています。二〇二五年度七月現在、関西バレーボール連盟の三部に所属しており、二〇二五年度春季リーグ戦では第二位、全国教育系大学大会では優勝という結果を残すことができました。

私たちは、プレイヤーが一〇人と他大学と比べると少ないうえ、バレーボールの指導者がいない中、二部昇格という目標に向かって日々練習に取り組んでいます。部員全員が一人ひとりの役割を認識し、高い目標を持ちながら練習に取り組むことで技能面の向上に努めてきました。また、人数が少ないことをマイナスに捉えるのではなく、与えられた環境の中で工夫し、全員が熱意を持ってバレーボールに取り組むことができるよう、ミーティングを重ねながら団結力を高め、チーム一丸となって試合に臨んでいます。

OBの方々をはじめ、たくさんの方の応援や支援のおかげで日々活動できていることにこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後も応援していただいてくれる方々のご期待に応えられるよう部員全員で精進して参ります。引き続きご声援のほど、よろしくお願いたします。



# 紫郊体育会の活動

## 紫巧会

### (器械体操部OB・OG会)

昭和五十七年体育学科卒

会長 森谷 年裕



器械体操部は師範学校時代の昭和六年に同好会として発足し、昭和八年には部活動として認められ、昭和九年には卒業生によって紫巧会が組織されました。その後京都師範学校、京都学芸大学、京都教育大学と歴史を重ね、令和七年度現在で創部九三年になります。

京都学芸大学時代の昭和三五年ごろは、大学の体育館は、現在の

場所にはまだ建っていないかったので、器械体操部の練習場は、現在の学生寮の方へ行っていたようですね。隣には柔道部が練習していたそうです。その後まもなくして、現在の場所に体育館が建ち練習をしたそうです。また、昭和三八年には円山公園音楽堂にて演技を披露したこともあったようです。



昭和37年 円山公園音楽堂

現在の器械体操部は、現役部員の人数も少なく本学で練習することとはなく、おもに京都大学にて他大学の学生と一緒に練習をしています。

さて、紫巧会の活動としては、世話係が全会員に働きかけ、現役部員も交えて、年に一度の総会・懇親会を実施しています。この会では現役部員に対して試合の遠征

費等に伴う激励金を贈ったり、会員相互の親睦を深めたりしています。令和七年度の総会懇親会には現役部員をはじめ、昭和三〇年代に卒業された方々も集い、交流を深めることができました。



昭和55年ごろ

また、これまでは会報誌を発行しておりましたが、諸般の関係で会員の近況報告を印刷したものを総会出席者に配布したり、欠席者には郵送したりしています。



平成26年ごろ

紫巧会の会員のなかには、中体連・高体連・体操協会等々で尽力されている方々がおられます。なかには、青年海外協力隊として外国へ赴き、現地の生徒に対して熱心に器械体操を指導するなど活躍され、器械体操の普及に尽力されていた方々もおられます。今後器械体操部、紫巧会がますます発展しますように微力ながら務めたいと思っています。



令和7年度紫巧会総会・懇親会

# キャンパスライフ



## 大会での入賞を振り返って

教育学専攻三回生 小山千織

大学に入学して間もない頃、私は弓道部に入部しました。そして、年始に行われた三十三間堂大の全国大会成人女子の部で第三位に入賞することができました。ここまで決して平坦な道のりではなく、思うように結果が出ず悔しさを抱いた時期もありましたが、その経験が今回の結果につながったと思います。

どれほど練習を重ねても納得のいく形にならず、悔しさと焦りで心が折れそうになった時が何度もありました。それでも努力し続けられたのは、私一人の力ではありません。厳しくも温かく導いてくださった師範の先生、共に悩み喜び合い、時にはぶつかりながらも支え合ってきた同期、共に努力をした先輩や後輩、そしていつもそばで支えてくれた家族、もしこの出会いがなければ、私はとっくに弓道から離れていたかもしれません。この場を借りて、皆さんに心から感謝を伝えたいです。

今までの私は、「どれだけ一人で限界まで自分を追い込めるか」が結果を左右するのだと考えていましたが、この経験から、「努力は人とのつながりの中で実を結ぶ」のだと学びました。これからも支えてくれる存在がいることを忘れずに、努力できる自分を誇りに思い、精進していきたいです。そして将来、教員として子どもたちと向き合うとき、結果だけでなく過程や人との関わりを大切にし、目標に向かって努力する尊さと支え合うことの大切さを伝えられる存在でありたいと考えています。



大学創基150周年記念協賛

## 第5回京都教育大学アートフォーラム展

会期：2026年5月26日(火)～5月31日(日)

会場：京都市美術館別館1階展示室

詳細は後日同窓会だよりなどでご案内いたします。



第4回展景：第5回展も同会場です

開催決定

詳細は、四月中旬ごろ同窓会だよりとHPに掲載します。

# 来年度総会は七月二十二日(日)

# ホテルオークラ京都

## 令和7年度 第26回 写真展要項

開催日時：令和7年11月7日(金)～9日(日) 10時～16時(9日は13時まで)  
京教大学園祭(藤陵祭)の実施日に合わせて計画  
開催場所：京都教育大学F26講義室(F棟2F)

### —— 作品募集要項 ——

- ①作品出展資格 京都教育大学関係者・写友(一般写真愛好家)
- ②出展作品 一人2点以内(写題は自由) \*天地が判るように裏に表示  
四つ切りまたはA4版(ワイドは不可) 額は当方で用意します。  
スマホ写真も縦・横自由、一人3点以内
- ③申し込みと問い合わせ先
  - ・10月17日(金)までに「申し込みはがき」に必要事項を記入し、切手を貼って同窓会事務局まで郵送してください。
  - 京都教育大学同窓会事務局  
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1 京都教育大学内  
Tel・Fax：075-644-8353 mail：dosokai@kyokyo-u.ac.jp
  - ・「申し込みはがき」が必要な方は、同窓会事務局まで連絡してください。
- ④勉強会 11月9日(日) 13時～15時
  - ・場所：写真展会場 講師：大西功氏(日本風景写真協会会員)
- ⑤作品の送付及び返却
  - ・送付日 10月31日(金)までに、同窓会事務局に持参、郵送、宅配で
  - ・返却日 11月9日(日) 勉強会終了後持ち帰り又は郵送宅配にて返却
  - ・作品を直接事務局へ持参の場合は、あらかじめ事務局へお電話をください。
  - ・スマホ写真は10月31日(金)までに同窓会事務局アドレスにメールで送付  
\*メール本文に、氏名、卒業年か、所属専攻回生、及び作品題を明記し、データ添付

### ★第26回写真展 学生のみなさんも、是非、ご参加ください!

・スマホの部も設けています(詳細はHPをご覧ください)。

## 第12回 いいとも講演会

令和7年11月8日(土) 13時30分～15時

場所：京都教育大学F22講義室(F棟2F)

講師：児玉一宏先生(京都教育大学英文学科教授・附属桃山小学校校長)

演題：「英語の不思議発見」

## 第59回 囲碁大会(囲碁道場)

令和7年11月8日(土) 9時～16時

場所：京都教育大学A3講義室(A棟2F)

初心者の方にも手ほどきします。  
オセロゲームも準備しています。  
気軽にのぞいてみてください。

## 編集後記

令和七年度定期総会が三〇名を超える多くの参加を得て盛会に終えることができました。来年度の大学創基一五〇周年記念大会に向けて弾みが付きましました。

特に、今回は四名の学生会員が参加し何らかの役目を担ってくれました。同窓会だよりでも、大学創基一五〇周年特別企画シリーズ其の三として、現役学生による「五年後の自分への手紙」を掲載しています。時代は変わっても、次代を生きる子供たちを教える教育の精神は不易であると実感できました。

先日還暦を迎えた同期の仲間が何十年ぶりに再会して盛り上がったことや、毎年同窓会があるにもかかわらず、海外生活で参加できず、卒業後五〇年目にして初めて参加できたという仲間の話を聞きました。部活や同好会の定例OB会はいろんな形で開催され、旧交を深めておられるのは「紫郊体育会の活動」でもお伝えしています。他にも、「創る」の紙面で京教大アートフォーラム会員の方などによる作品や、卒業生が学校現場で「頑張ってます」の様子を掲載しています。

大学が創基一五〇年という長い歴史の中で、共に学び同窓生という絆で紡いできたことを大切に、大学の更なる未来発展を願って紙面の充実に努めていきたいと思えます。今後ともご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

### 《編集委員》

- 走井 徳彦
- 飯田 一輝
- 谷 早苗
- 綿越 貴久
- 山本 早苗
- 國重 初美
- 中東 朋子